This copy has been provided by the UBC Archives [or UBC Rare Books and Special Collections] and is to be used solely for research or private study.

YAMAGA YASUTARŌ PAPERS

FOLDER NO.
3-10

II 44

PLEASE RETAIN
ORIGINAL ORDER

YAMAGA YASUTARŌ PAPERS

FOLDER NO.
3-10

新天地へ

YAMAGA YASUTARO PAPERS

野天地へ
、
一あんな一体、どの二処私書き、引移りて行く
つもりなんだよ。遊子をもちもい、僕な式迎私、一番
如何、地時の土地を見付中たんだ。
一分に出来つたら外出い、僕な式迎私、一番
一だけど、道は孤独と訪こう続くりの
、僕が見付けた新しい方へ、お前は長い旅の
正午は、暑の絶望的寂寞を慰める方やうに
の学れも意れをとなう程、りてが了ルお所だ

10 X 20

FOLDER NO. 3-10

YAMAGA YASUTARŌ PAPERS

それが皆、僕等の物になるんだ申訳かい。

一、彼女は故郷和一夫と続いた系統に続いた

やうに、代のキャリアーの沫と、山の中に

巣をも、そうする外に途がありと感念して、

黙つて居た。

一何も僕は相談も無く、決心やいい

一それは、そうだが、結局国家

やふいかん

の思ふ通りとかふいかん

数は已に生娘

の日だつたので、神主も

実権鋭敏に

つて居た、僕は此事を告げ、樂

10 X 20

FOLDER NO. Z-10

YAMAGA YASUTARO PAPERS

奪ふものもなく、と思つて、自分をじつと探へてゐ
ると、彼女も黙つて、後ずさりをしながら、驚
いて、牛車の手綱を引きしめる、見ると二才
になるかならずのハロルドが車から、落ちて
ゐた、筆が駆けよつて、抱き上げて見ると、
幸ひ藪の茂つた上に落ちたので、怪我はし
てゐなかつた、道は狭い、たゞ木の間を縫つて
行くだけだからそれにつづく狭い事
倒れた、筆は両方の手綱を落さないと、自分で
も、振りの山道を、ずつと抱き通した、

FOLDER NO. 3-10

YAMAGA YASUTARŌ PAPERS

ぐらく行くと、ゆく平坦になり、明るみに
出た、湖水、その色晩めると、無名も気れぬ美色
の色、ちらくの野が咲き乱れる、その一体気
の澄んやかな気配りに包まれる、彼女はつ
と故郷の美しさと比較しさ再度ジッと見つめた
牛車は、ゆるやかに、湖水の方へ傾斜した、
斜面を下つ鏡のやうな湖水のほとりに、牛車は止る
つた、木の全い、広い草原が、湖水に半島の如く、
突出た断崖、此等が吾等の自由の新天地、吾等の
断崖地帯の頂上に立つ天地

10 X 20

FOLDER NO. 3-10

( ) Y. YAMAGA

人里離れから、山中の自分の拵えんだ、土地に来るのに、時計を見ると五時半頃家掛けてみると、少し脚の速い牛だったら三時半には来る筈だ、鐘が牛を返せと言う筈だ。鳥は牛車から降りて、池の方を眺めると、あつた、蒼空の色が水に映り、太陽に反射して黄金色の小波が湧みる、湖水の岸辺の平地には、背丈く伸び育つた、青草が茂り、花や穂の雑草が、云ひ知れの牧場をギッシリと埋めて居た、又た樫ハンノキ、メヤブ、ポプラ、柳、湖上の水鳥の遠音に

10 X 20

YAMAGA YASUTARO PAPERS
FOLDER NO. 3-10

YAMAGA YASUTARŌ PAPERS

・森の中には小鳥が
男は女の嘆声を聞け
ニヒヤキ婦い娘を
園に来たようだ
僕は妻が喜ぶのを予期
嫁入の深さは、何寸を計ってもか、三尺
はおつたい、一あんな濃しい野菊がしと書は地
上の美しさを讃めそたのだが、僕は地下の
肥土一号粉から"ブレッドの豊かな穂りを助け
る黒土の富を想ふ(と思そた、

故郷の山河を憶つて(式の当日は

10 X 20

YAMAGA YASUTARŌ PAPERS

一今では野花と雑草だけに過ぎないが、見て
おれ、此処から先は、異郷からブレッドが採
れなんだ国外遠の樽栗は必要な風べそを
あのが、此黒土から運んだ、それを運ぶ
責任が、自分の眼と頭にあるんだ、そして又
新天地の新有事業は、あいか、
素は、僕と第とを菜根で建てたおさち婦立
小屋に、小言をはおかつた、彼女は人郷の
荘る新の家が族ど全部先の小屋あり、原始
的だと感念してたらしい、

10 X 20

FOLDER NO. 3-10

YAMAGA YASUTARŌ PAPERS

彼女は、自分が、故郷から遠々打つて来た、僕から大工道具と、蓋方から運んだ僕の荒板以外に、何も無い山の中で、此れ以上の経営を望むのは、無理であり、僕としては最善を尽した事を知つて居たので、些しも不平らしい事は言はなかつた。

此処には此れ丈ヤツテ行く積りだと、木式を重ねて作つた、木式の家が出来ると、此れで雨、露を凌んだ、一寸寒い天気になると、此れは、此れ丈では済山丸

10 X 20

FOLDER NO. 3-10

YAMAGA YASUTARO PAPERS

( ) Y. YAMAGA

と言ふ、僕は小学の頃、兄が大工仕事する時、多少つたない事があるが、一通り自分で上手だと思つて居るから、材料と木の按や鉋を準備して置くと、兄は其の儘で、鋸を遠方から當てゝ、にして其の厄介で仕様がないが、板代は助かるが、仲々一枚宛の賃銀が四銭宛取られるとやつぱり板の方がよいと決定した、

幸ひ裏は狩の茅平で言はゞ自分の家の様なもの、殊に兄が大工仕事をするので、

10 X 20

FOLDER NO. 3-10

( ) Y. YAMAGA

模型をまくらとも自分でうお類、来なものだと思
つた、おそこがが水ぜめで死者ら、吐瀉が物つ
て死ぬうめもの多いのだが、男はうん
赤ん坊に気が行かないのが、気が休まる
ものだ。

妻は、夫の帰りを、遅さを憎
めながらも待つている。

陰は翁助から、そう言つて還つたのだ、下
女、親戚の婦人の給仕の称は、床の
上、枕辺に部厚に敷いた枕草を除き、
その外に結方が
その外に結方が
いた間は、手し
女、親戚の婦人
陰は翁助から
めながらも待つ
妻は、夫の帰り
赤ん坊に気が行
ものだ。
て死ぬうめもの多
て死者ら、吐瀉が物つ
つた、おそこがが水ぜ
模型をまくらとも自分

10 X 20

YAMAGA YASUTARŌ PAPERS
FOLDER NO. 3-10

( ) Y. YAMAGA

紀の貧児、益の痩せた、小さな、土地と比べて、
氏の自分達の土地は、故郷の大農の持地より
も寒く冬、肥土では無いかと、語り合つて胸
を張つて播き下ろした、遠近に伸びた松の木
又牧草の彼方を見よ、遠近に伸びた松の木
さは、自分達の住む、がつがりとした、暖かい
大井上、未だの材料だ、誰も盗まないし
、逃げも隠れもせぬ、自分達のホームは手の届く所
に立つて居るではないか、
藤手窓も無い、土間に干草を敷いた、其上

10 X 20

YAMAGA YASUTARŌ PAPERS
FOLDER NO. 3-10

YAMAGA YASUTARŌ PAPERS

に、戒名を持って来た、僧侶の妹尾氏が
亡んだ、二人の子供は、フクロウ千草の
上に、轉げ廻りつゝ、草の中に孔を明けたりとて
、大ぼしやがいはまだ生れ出ざる
兄の方が、「マヽ今日から、カナ子の留守
番の家に寝ろよ」と妻は答へ
た、「ママよ」と妻は答へ
た、戦死の報に接したる妹尾氏が
、ご自分達が三人でお寺へ、北に遠慮もへらぬ
、これからは、何かと複雑いろいろ有る事
を察られ、
妻の心の中は、もう一つ複雑いと憐れ

10 X 20

FOLDER NO. 3-10

( ) Y. YAMAGA

る事が出来ない、それはかゝる
の事一の自分達の家を、故郷の両親や、友達
、親類の者と、故郷の人達に思ひ
此る心配が、充満着いという安心感もあつた
うゝ。
力ヨトの蓋は其の他、Gレーキの様とりて
自分達は兎の様に、彼らと
世界に生れて来たのであるから、生活は必要
亦此事は、山程あるも、どれから先きにするか
、何をが、自分の手を持つて居るのであるも

10 × 20

YAMAGA YASUTARŌ PAPERS
FOLDER NO. 3-10

YAMAGA YASUTARO PAPERS

一地域の違いとかいえば、自分が、故郷から遠く
々持つて来た、身辺の物品だけである、例えば
も衣服、食、絵が、一番大切だ、他のも
は少く越せるものよい。
書は、吾が家の唯一の家宝であり、故郷か
ら海山越え国分違から離れずに一緒し、船や
汽車の積み下ろしに、角は潰れ、擦切れの
古い長持を開いて、櫓櫂の匂いのする、衣
類を出して納めた、其中には故郷で使つた煙草
のが、冬籠りは役立つ程

10 X 20

FOLDER NO. 3-10

YAMAGA YASUTARO PAPERS

結ん
だ名を、改
名する時に
自分が
気に
入ら
ない
名を
つけ
ること
が
ない
ように
よく
考え
て
名
前、彼女は
算
数
すく
良
い、算
数
鉄
!
と
言
裁縫
は、毛
糸
の
おし
ゃ
編み物針、テー
ブ
ル
掛け、
赤
い
紐、小
さ
い
玩
具、
人
形
など
出
来
上
がり
た
物
を
集
め
る
時
は、
婚
約
時
代
の
ように
楽
しい
時
は
ない
と
言
う
ほど
楽
しい
事
の

FOLDER NO. 3-10

FOLDER NO.
3-10

10 X 20

( ) Y. YAMAGA

YAMAGA YASUTARŌ PAPERS

( )

Y. YAMAGA

に深みのある趣つた、

私は、いかゞ小さゝを建てる位の掛の広、

境会ふ松の木を伐り、皮を剥ぎ乾かしてナウ木

の皮を屋根に葺く為に剥いだ後、飛び飛びに

して屋根や床板に釘つた、そして葛を縄代用

に集めた、そして家の周りの小高い所に、

横穴を掘つて食物の冷蔵庫を作つた、又パン

を焼くかまど（オーブン）を矢張り横穴式に

据ゑ煙突を作り、石を拾ひ集めて肉調理

に積み重ねた、乾燥を焚き石がよく焼けた

10 X 20

YAMAGA YASUTARO PAPERS

FOLDER NO.
3-10

YAMAGA YASUTARO PAPERS
FOLDER NO. 3-10

( ) Y. YAMAGA

10 X 20

跡に薪を割き出し、炭火の上網プレツドを焼く社掛けである。文的社会と繋ひ、何もかも自分一人でやるのであるから、人當に手が二本欲しいのがもどかしい。と言うと二本の手で掴むことしかできないと笑われるであろう。

一体彫刻は彫塑の教師だと父が隣の中学に言つたなどと、今自分が体験しつゝあるのだ。彫塑過程の塑造の型に私をいれられてゐるやうな心地がする。

るのだ、自家の年と顔が段々と雄歩するのを自覚するに、人造欲をもつやうにも出来ないと、今は、自分の画年の器用に倚らねばならぬ。

YAMAGA YASUTARO PAPERS
1
( ) Y. YAMAGA
10 X 20
FOLDER NO.
3-10

二本の手で、すると雪の中に赤い者は、荒野で
のたれ死をなの深く達が多く
　　書も同じ、食事の作り方、衣類の洗濯、
つぎ当て、破れ汚れた子供の着物、故郷から
持ち来た衣類の始末など、一切彼女の
駆と両手で花付けねばならぬ、傍に一つ家の者
の仕事篇は、幼時新しいのが買えるの喜び利
ちおい、出来だけ長持ちさせねばならぬ、
故郷から持って来た、洗濯石鹸は、とっくに
なくなって、鬼の油屋のあくで、

10 X 20

YAMAGA YASUTARO PAPERS

( ) Y. YAMAGA

彼らを見た、一人一人の
うちの、ある者は、それが取
っ青の関心その第一は、汚れと乳と臭気と闘う事だ
つた、外で一生懸命働
醜のが、地団太ふんで怒る
た、即速筆先鉄を持ち出して、私を睨んだ、
乳の形が高い骨に切つて動物の
一女に散髪が生業
方髪御注文刈りを
て御待ち申上げ
時は面足を縫ひ、靴つ

10 X 20

FOLDER NO. 3-10

( ) Y. YAMAGA

つて 鶯が 高い 木の 上
も 枝の うから とび上り、私の 聲は 高々と 長く、も
つれて ぽたぽたと 雫が 言つた。
と 地上に 降りた、 魅かに 一
次に 入つて 破れ 鐘の 如く、一体 此れが 私の
歌かと 思はれる 程、がらがら 咽が 出て 來る
い それも 湖水に 聲を 浸して 洗つて 呉れると、
實に 爽々と した 気持ちが よい、 海鵜いと 思つ
た、

10 X 20

YAMAGA YASUTARO PAPERS
FOLDER NO. 3-10